

令和 7 年度

評価・評定の資料

～各教科のシラバス・年間指導計画～

2 年

中央区立銀座中学校

中央区立銀座中学校年間シラバス

教 科	国 語	学 年	2 年	文責：熊谷 美帆
-----	-----	-----	-----	----------

【教科の目標】

国語の諸活動として、長い文章や複数の文章、タブレット上の文章に対する読解力を身に付け、コミュニケーションやプレゼンテーション能力の向上を図り、その能力の獲得や定着を図っていく。また、古典や言語知識・文法の学習を重視し、日本の伝統文化や日本語に興味、関心を持って取り組める姿勢の育成を目指していく。

【使用教材・副教材・使用教室・指導形態】

教科書：国語2（光村図書）
 副教材：新・国語の便覧（正進社3年間）よくわかる国語の学習2年（明治図書） 10問漢字2（浜島書店）
 国語の積み上げ2（明治図書） 読み方レスキューⅢ（正進社） つまづかない！文法の学習
 使用教室：各教室・4階国語教室 指導形態：一斉授業・少人数授業・TT授業

【評価の観点と方法】

	評価規準	評価方法
知識・技能	・音声、語句、語彙、文法、漢字などの国語に関する基礎的な事項・文学史・古典・漢文や、国語の特質について理解し、知識を身に付けている。楷書の書き方と行書の基礎的な書き方を理解し、字形を整え、文字の大きさ、配列・配置に気をつけて書ける。情報を適切に読み解く技能を身に付けている。	定期考査・授業意欲（既習事項・既習学習事項以外の発言を含む）・文章構築・課題作文・漢字・定期考査
思考・判断・表現	・多様な方法で材料を集め、自分の立場及び伝えたい事実や事柄を明確にして、読みやすくわかりやすい文章を書き表現する。・様々な種類の文章を読み、文章の構成や展開をとらえて内容的に理解し、知識や体験と関連付けて自分の考えを再構築し、発表する。	定期考査・作文・小論文・ワークシート・プレゼンテーション・文章構築・教室ディベート・文法・古文と漢文の応用・表現活動の内容
主体的に学習に取り組む態度	国語に対する関心をもち、進んで話し合ったり書いたり、読書に親しむ態度を養う。プレゼンテーションに向けて、多様な方法で材料を集め、自分の立場及び伝えたい事実や事柄を明確にして、読みやすくわかりやすい文章を書く。また暗誦テストや長文読解に向けて意欲的に取り組む	授業態度（発言を含む） 提出物の内容・漢字ノート 暗誦テスト・音読テスト 調べ学習（タブレット使用） 振り返りシート

【授業の進め方と学習のポイント】

- 授業の基本として、先生の話をよく聞き、考え、話したり書いたりすること。
- 発言や発表に進んで参加すること。グループワークで考えを共有し自分の意見を再構成すること。
- 授業の中で行う漢字小テストや文法テストなどの小テストもしっかり取り組むこと。
- パワーポイントなどの作品を丁寧に作成し、提出物は期限を守って提出すること。
- 定期考査の前には、教科書を繰り返し読むことを基本として、自分のノートを照らし合わせ、授業の流れを確認する学習を行う。ワーク等、問題集を繰り返し学習する。

【家庭学習の進め方】

- ①一番大切なことは、学校の授業です。特に、心情把握は、根拠に基づいたものになるので、授業中での解説などの話をまとめてメモするなどの工夫を授業で行っておくことが大切です。また2年生では長文読解に慣れていきます。
- ②ディベートやPPを用いた発表などは、家庭での準備が大切です。主体的に取り組むと、授業での発表も優れたものとなり、学力向上につながります。
- ③漢字練習は家庭学習の基礎です。毎日取り組みましょう。特に成績上は、決められた量だけをやるのではなく、意味調べをしたり、部首を書いたり、例文を書いたりなど、工夫のあるものに加点します。自分流の漢字ノートを作成しましょう。また、重要古語や、文法など既習事項は自信をもって解答できるように、何度も復習しましょう。
- ④読書はたくさんしましょう。読んだ本の帯を作れるくらい、内容を要約したり、キーワードを抜き出したりすると力がつきます。ほんのおすすめポイントをまとめるとビブリオバトルにも役立ちます。

【学習の基盤となる資質・能力を身に付けた生徒の育成】

【授業計画】

9つのマトリックスの整理		資質・能力		
		知・技	思・判・表	学びに向かう力
学習の基盤	言語活用能力	1	2	3
	情報活用能力	4	5	6
	問題発見力・解決力	7	⑧	9

単元名	「論理的に表現しよう～教室ディベート2～」
実施月	12月
実施学年	2年
授業者	熊谷 美帆
内容	「走れメロス」を題材として、課題解決のためにインターネット情報を収集し、意見を構築して表現し、対応する意見を共有し自分の意見を再構築する。

【2 学年 国語 年間指導計画】学習の基盤となる資質・能力の育成を意識した授業

	時間	単元名	主に学習すること	学習のねらい
4	5	《1》広がる学びへ 「見えないだけ」	作者の物の見方や感じ方をとらえる 音読	作者の物の見方や感じ方をとらえ、声に出して読む。
	4	「アイスプラネット」	情景描写に着目する	登場人物の気持ちを読み解く。
5	1	言葉① 漢字① 「季節のしおり」	対義語・類義語・多義語 熟語の構成を知る	声に出して読み、言葉の響きや調子を楽しむ。
	6	「枕草子」	暗誦・口語訳・自分流枕草子	熟語の構成を捉える
5	4	《2》多様な視点から 「クマゼミ増加の原因を探る」	事実と、考察の関係	事実と、考察の読み分け、その関係に注意しながら読む。
	5	「魅力的な提案をしよう」	論理の展開	
6	2	「メディアを比べよう」		
	2	《6》いにしえの心を訪ねる 「音読を楽しもう 平家物語」	単語の分け方 文語文の響きや調子	声に出して読み、言葉の響きや調子を楽しむ。作中人物の心情を読み取り、情報活用し、感動の場面を絵画やピクトグラムを用いて図解し視覚的に表現する。
6	10	「仁和寺にある法師」 9月予定	文語文の表現	漢詩に触れ、昔の人の心情をとらえる。
	3	「漢詩の風景」 10月予定	心情把握	単語を理解する。
7	5	「漢詩の風景」 10月予定	漢詩の調子	短歌の表現の美しさを味わう。
	1	文法への扉①		読書案内を作る
7	6	《3》言葉と向き合う 「短歌に親しむ」	短歌の表現	書写「文字をデザインする一筆刻」を完成させる
	6	「短歌を味わう」		ルに向けて ver 1)
7	6	「言葉の力」		文章の構成や展開、表現について自分の考をまとめる
	6	◎書く 「読書を親しむ」		
9	12	「翻訳作品を読み比べよう」		
	12	「季節のしおり」 夏		
9	12	ビブリオバトルへ向けて ver 2 『説明のしかたを工夫する』	目的に応じて聞く プレゼンテーション	目的や状況に応じて、情報を選び、大事な点を落とさず書く。
	12	『根拠を明確にして意見を書こう』		話の構成を工夫して効果的に伝える。
10	5	《4》関わりの中で 「ヒューマノイド」	情景・心情描写をとらえる	意見を明確に伝えるための根拠を示す。
	4	「字のない葉書」	文章構成・展開	描かれている優しさや温かさを読み味わう。
11	4	《5》「モアイは語る」		
	3	「気持ちを込めて書こう」	敬語表現	
11	3	言葉② 漢字②	同訓同音異義語	
12	3	《8》「走れメロス」	読書を楽しむ 様々な考え方に触れる	課題解決のために、メロスの心情や作家について情報収集し論理的な文章を書く。
	2	「論理的に表現しよう」教室	人物像の変化	他者の考えに触れ、自分の考えを再構成し表現する。
12	10	ディベート学習基盤	テーマを探る・ディベート	
	12	文法への扉③		
12	12	◎読書生活を豊かに 「世界で一番の贈り物」	毛筆による字形・構成	字形を整えて書く。
	12	◎書き初め・硬筆		
1	5	《7》論理を捉えて 「君は「最後の晩餐」を知っているか」	事実と根拠 構成	事実や根拠を確かめながら筆者の意見を読み取る
	5	「研究の現場にようこそ」	パネルディスカッション	根拠を明らかにして、意見をまとめ、相手に考えを的確に伝える
2	1	「日本に野生のゾウやサイがいた頃」	詩の表現技法	知識や体験と関連づけて自分の考えをもたせる
	2	文法への扉	用言の活用	
2	1	◎読書に親しむ 「蜘蛛の糸でバイオリン」	ノンフィクション作品にふれる	人物の考え方や生き方について、自分の考えをもつ
	7	季節のしおり 冬		
3	3	詩「木」	付属語	言葉と人間のかかわりを考える。
	3	百人一首	方言と共通語 送り仮名	付属語について理解する
3	2	思考の地図	言葉と人の関わり	科学について考えを深める
	2	応用編 古典の世界を広げる 敦盛の最後	詩の表現 言葉への感性を磨く 和歌の学習	抽象的な表現や比喻について捉え、作者の思いを捉える。 和歌の表現を味わう。

教科	社会科	学年	2年	文責：村田寛晋
----	-----	----	----	---------

【教科の目標】

広い視野に立って、社会に対する関心を高め、諸資料に基づいて多面的・多角的に考察し、我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を深め、公民としての基礎的教養を培い、国際社会に生きる民主的、平和的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う。

【使用教材・副教材、使用教室・指導形態】

○地理：教科書（東京書籍）・地図帳（帝国書院）・ワーク（明治図書、冊子で配付）
○歴史：教科書（東京書籍）・ワーク（明治図書、冊子で配付）
○共通：電子資料集 TAGLOT（正進社）
◇各教室・社会科教室 ◇年間 105 時間を、おおむね 60 時間を地理、45 時間を歴史に分ける。
◇地理・歴史をそれぞれ一単位ごとに交互に行い、指導、グループワーク、個人指導を交えて行う。

【評価の観点と資料】

観 点	評 価 規 準	評 価 資 料
知識・技能	社会的事象に関する有用な情報を適切に選択して活用するとともに、追及し考察した過程や結果を適切に表現している。社会的事象の意義や特色、相互の関係を理解し、その知識を身につけている。	◇定期考査 ◇小テスト
思考力・判断力・表現力	社会的事象から問題を見だし、社会的事象の意義や特色、相互の関連を多面的・多角的に考察し、社会の変化をふまえて公正に判断している。また考察・判断した過程や結果を適切に表現している。	◇定期考査（主に論述問題） ◇宿題 ◇レポート
関心・意欲・態度	社会的事象に対する関心を深め、それを意欲的に追求し、より良い社会を考え、自覚を持って責任を果たそうとしている。	◇定期考査（主にニュース） ◇授業への取組（発言等） ◇宿題・ノート等提出物

【授業の進め方と学習のポイント】

- ① きちんと準備をして忘れ物をせず、宿題などの提出物は、必ず提出期限を守る。
- ② 授業は受け身でなく、問いかけに反応したり、発言したりするなど積極的に参加する。
- ③ ただ指示通りの作業をするだけでなく、気になることや発言しそびれたこと等を積極的にメモする。
- ④ 単元の問いや、それを追究するためのテーマを意識し、調べ、スライドにまとめることができるようにする。そして、調べたりまとめたりする学習から、単元の問いに対して様々な視点や角度から考えて自分の意見を表現できるようにする。

【家庭学習のポイント】

- ①「食べ物」など、自分の興味と結びつけて覚える。
- ②『NHK for School』などの、視聴覚教材をたくさん視聴する（様々な感覚を使う）。
- ③毎日 5～10 分程度で授業の復習をする。
→ワークの問題を解くだけでなく、「答えの語句から。問題文を言えるようにする」など、教材を最大限活用する。また、わからない語句を調べたり、学習した語句をもう一度ノートに書く。
- ④年表や地図を、部屋のドアなど普段見る場所に貼り、見る習慣をつける。

9つのマトリックス		資質・能力		
		知・技	思・判・表	人間性
学習の基盤	言語能力	1	2	③
	情報活用能力	4	5	6
	問題発見・解決能力	7	8	9

単元名	第3章1節 九州地方
実施月	7月
実施学年	2年
授業者	村田 寛晋
内容	単元の最初に「水俣病はなぜ起きたのか」という目標に向けて必要な要素を各々整理する。 単元の最後に自分なりの理由を、授業内容を踏まえてまとめる。

【年間指導計画（地理的分野：年間65時間）】

月	時間	単元名	主に学習すること	学習のねらい
4・5月	12時間	第3編 日本のさまざまな地域 2章 日本の地域的特色と地域区分 1節 地形から見た日本の特色 2節 気候から見た日本の特色 3節 自然災害と防災・現差への取り組み	日本の地理的位置 日本の山地と海岸・川と平野 日本の気候・自然災害と防災 雨温図の見方 世界の人口分布と変化 日本の人口と過疎・過密問題	日本の国土の位置及び領域の特色と変化を世界的な視野から多面的・多角的に考察し、日本の現状を位置と領域の面から大観する。 世界的視野から見た日本の地域的特色や、日本全体の視野から見た国内の諸地域的特色を「自然環境」「人口」の観点からとらえる活動を通して、日本の国土の特色を大観する。
6月	7時間	4節 人口から見た日本の特色 5節 資源・エネルギーから見た日本の特色	資源とエネルギー 農林水産業・工業・商業・サービス業 グローバル化 交通・通信	世界的視野から見た日本の地域的特色や、日本全体の視野から見た国内の諸地域的特色を「資源・エネルギーと産業」「地域間の結び付き」の四つの観点からとらえる活動を通して、日本の国土の特色を大観する。 環境問題や環境保全を産業や地域開発の動向、人々の生活などに関連付けて考察する。
7・8月	5時間	6節 産業から見た日本の特色 7節 交通・通信から見た日本の特色	環境問題・環境保全に向き合う人々の暮らし	環境問題や環境保全を産業や地域開発の動向、人々の生活などに関連付けて考察する。
9月	6時間	3章 日本の諸地域 1節 九州地方 学習基盤 2節 中国・四国地方	都市と農村の変化と人々の暮らし	都市と農村の変化を人々の生活や産業などに関連付けて考察する。
10月	8時間	3節 近畿地方 4節 中部地方	歴史の中で形作られてきた人々の暮らし 活発な産業を支える人々の暮らし	産業や文化の歴史的背景や開発の歴史に着目して、それを他地域との結び付きなどに関連付けて考察する。 東海、中央高地、北陸の各地域の違いを、各地域の自然的条件と社会的条件の両面から考察してとらえる。
11月	6時間	5節 関東地方	さまざまな地域と結び付く人々の暮らし	東京に日本を動かす中枢機能が集中していることに着目して、日本各地や世界との結び付きを捉える
12月	6時間	6節 東北地方	伝統的な生活・文化や災害からの教訓を受けつぐ人々の暮らし	伝統的な生活・文化や災害からの教訓を通して、その自然環境や歴史的背景、他地域との交流などから多面的に考察する。
1・2・3月	15時間	6節 東北地方 8節 日本をながめて 7節 北海道地方 4章 地域の課題	伝統的な生活・文化や災害からの教訓を受けつぐ人々の暮らし 雄大な自然とともに生きる人々の暮らし 課題の把握・調査追究・まとめと発表	伝統的な生活・文化や災害からの教訓を通して、その自然環境や歴史的背景、他地域との交流などから多面的に考察する。 自然環境の特色と関連付けてとらえる。これまで学習した内容を基に広い視野から日本全体の地域的特色に気付く。 中央区の課題を見だし、課題について調査・追究を行い、より良い中央区のために何をすべきかについて提案することができる。

【年間指導計画（歴史的分野：年間40時間）】

月	時間	単元名	主に学習すること	学習のねらい
4月	4時間	4章 近世の日本 1節 ヨーロッパ人との出会いと全国統一	織田信長・豊臣秀吉による統一事業 兵農分離と朝鮮侵略 桃山文化	ヨーロッパの文化の日本に与えた影響と、戦国時代からの流れと織豊政権の特色をつかむ
5月	5時間	2節 江戸幕府の成立の鎖国	江戸幕府の成立と支配のしくみ さまざまな身分とくらし 貿易の振興から鎖国へ 鎖国下の対外関係 業や諸産業の発達 都市の繁栄と元禄文化	江戸幕府の支配のしくみをとらえる 鎖国までの流れをつかむ 産業の発達に伴い、交通が発達し、地域の結びつきができたことを理解する。
6・7・8月	9時間	3節 産業の発達と幕府政治の動き	享保の改革と社会の変化 幕府政治の改革 新しい学問と化政文化 外国船出現と天保の改革	幕府の諸改革と社会的背景について理解する。 外国船の渡来と内政の危機による幕府政治のゆきづまりをつかむ
9・10月	7時間	5章 開国と近代日本の歩み 1節 欧米の進出と日本の開国	近代革命の時代 産業革命と欧米諸国 ヨーロッパのアジア侵略 開国と不平等条約 江戸幕府の滅亡	開国から攘夷、倒幕へのさまざまな動きを整理する
11・12月	7時間	2節 明治維新	新政府の成立 維新の三大改革 文明国をめざして 近代的な国際関係 民衆運動の高まり 立憲国家の成立 近代文化の形成	明治政府のとした中央集権づくりと外交をとおしてそのねらいをつかむ 大日本帝国憲法制定の過程をつかむ
1・2・3月	8時間	3節 日清・日露戦争と近代産業	欧米列強の侵略と条約改正 日清戦争、日露戦争 韓国と中国 産業革命の進展 近代文化の形成	帝国主義の中で、日清・日露戦争を経た日本の変化をとらえる 大戦前後の国際関係とその変化を理解する

教 科	数 学	学 年	2 年	文責：山田 峻治
-----	-----	-----	-----	----------

【教科の目標】

- ① 文字を用いた式について、目的に応じて計算したり変形したりする能力を伸ばすとともに、連立2元1次方程式について理解し、それを用いる能力を養う。
- ② 基本的な平面図形の性質について、観察、操作や実験を通して理解を深めるとともに、図形の性質の考察における数学的な推論の意義と方法を理解し、推論の過程を的確に表現する能力を養う。
- ③ 具体的な事象を調べることを通して、1次関数について理解するとともに、関数関係をみだし表現し考察する能力を養う。
- ④ 不確定な事象を調べることを通して、確率について理解し用いる能力を培う。

【使用教材・副教材・使用教室・指導形態】

教科書：東京書籍

副教材：基礎からの問題集（東京書籍）

使用教室：教室、数学教室、数学少人数教室 ・一斉授業、少人数指導、TT授業

【評価の観点と方法】

評価観点	評価規準	評価方法
知識・技能	- 数量や図形などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解している。 - 事象を数学化したり、数学的に解釈したり数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	定期考査・単元テスト など
思考・判断・表現	数学を活用して事象を論理的に考察する力、数量や図形などの性質を見だし統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。	定期考査・単元テスト など
主体的に学習に取り組む態度	数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとしたり、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしていたりしている。	授業態度（記述・発言内容や話し合い活動、発表等）・週末課題・問題集・テストの解き直しや振り返り など

【授業の進め方と学習のポイント】

- 考え方を理解するだけでなく、手を動かして計算することを大切にする。
- 計算の過程（途中式）を大切にし、他者に伝える記述を意識すること。
- 解けた喜びを感じさせるようにする。
- 予習 → 授業 → 復習 のサイクルを守る。
- 授業では、ノートをとるだけでなく、説明をよく聞き大切なポイントはメモする。

【家庭学習の進め方】

- ① まずは学校の授業を大切にする。書く前に説明をよく聞き、頭に入ったことをノートに写す。
- ② 問題を解いて間違えたら消さないで新たに書き換え、どんな間違いをしたか明らかにする。
- ③ 理解できなかったことは早めに授業者に聞く。
- ④ 家で教科書やノートを見直す。読むだけでも良いが、数問でも問題を解いた方が良い。
- ⑤ 毎日5分でもよいので繰り返す。「継続は力なり」

【学習の基盤となる資質・能力を身に付けた生徒の育成】

9つのマトリックス		資質・能力			単元名	第7章 箱ひげ図
		知・技	思・判・表	人間性	実施月	3月
学習 の 基盤	言語能力	1	2	3	実施学年	2年
	情報活用能力	4	5	6	授業者	山田 峻治
	問題発見・解決能力	7	⑧	9	内容	データの分布の傾向を比較して読みとり、批判的に考察し判断することができる。

【2 学年 数学 年間指導計画】 学習の基盤となる資質・能力の育成を意識した授業＝学習基盤

<数量・関数・確率・データの活用>

月	単 元 名	主に学習すること	学習のねらい
4 ・ 5 月	15 ⑧ 1 章 文字式を使って説明しよう [式の計算] ⑥ (1) 式の計算 ① (2) 文字式の利用 (3) 式による説明 章の問題	○多項式の計算 ○単項式の乗法と除法 ○式による説明 ○等式の変形	○単項式と多項式、次数の意味を理解する。 ○同類項をまとめることができ、多項式の加法や減法の計算ができる。 ○多項式と数の乗法や除法の計算ができる。 ○単項式同士の乗法や除法の混じった計算ができる。 ○数の性質が成り立つことを、文字を使って説明できる。 ○目的に応じて等式を変形することができる。
6 ・ 7 月	12 ⑦ 2 章 方程式を利用して問題を解決しよう [連立方程式] (1) 連立方程式とその解き方 ④ (2) 連立方程式の利用 ① 章の問題	○連立方程式とその解 ○連立方程式の解き方 ○いろいろな連立方程式 ○連立方程式の利用	○2 元一次方程式とその解の意味、連立方程式とその解の意味を理解する。 ○加減法を理解し、連立方程式を解くことができる。 ○代入法を理解し、連立方程式を解くことができる。 ○かっこをふくむ連立方程式や、計数に小数や分数をふくむ連立方程式を解くことができる。 ○具体的な問題を、連立方程式を利用して解決することができる。
9 ・ 10 ・ 11 月	19 ② 3 章 関数を利用して問題を解決しよう [1 次関数] (1) 1 次関数 ⑧ (2) 1 次関数の性質と調べ方 ④ (3) 2 元一次方程式と 1 次関数 ④ (4) 1 次関数の利用 ① 章の問題	○1 次関数 ○1 次関数の値の変化 ○1 次関数の式を求める方法 ○2 元一次方程式のグラフ ○連立方程式とグラフ ○1 次関数とみなすこと ○1 次関数のグラフの利用 ○1 次関数と図形	○1 次関数の意味を理解し、 $y = ax + b$ の式に表すことができる。1 次関数の変化の割合が一定であることを理解する。 ○1 次関数のグラフの傾きと切片の意味を理解する。 ○1 次関数のグラフを傾きと切片をもとに書くことができる。 ○1 次関数のグラフをもとに、変域を求めることができる。 ○グラフの傾きや切片、通る点を読み取り、1 次関数の式を求めることができる。 ○2 元一次方程式のグラフをかくことができる。 ○連立方程式の解と、2 つの二元一次方程式のグラフの候点の座標の関係を理解する。 ○具体的な事象の中の 2 つの数量の間の関係を、1 次関数とみなして問題を解決することができる。 ○図形の辺上を動く点によってできる図形の面積の変化を、1 次関数の式やグラフで表すことができる。
12 月	9 ⑥ 6 章 起こりやすさをとらえて説明しよう [確率] (1) 確率 ② (2) 確率による説明 ① 章の問題	○同様に確からしいこと ○いろいろな確率 ○確率による説明	○多数回の試行によって得られる確率と、場合の数をもとにして得られる確率の関連性を理解する。 ○起こりうる場合を、樹形図や表を使って数え上げ、確率を求めることができる。 ○起こりうる場合の組み合わせを考えて、確率を求めることができる。 ○身のまわりの事象の起こりやすさを、確率をもとにして考え、説明できる。

1 月	5 ④ ①	7章 データを比較して判断しよう[データの比較] <u>学習基盤</u> (1) 四分位数と箱ひげ図 章の問題	○四分位数と箱ひげ図	○箱ひげ図と四分位数の意味を理解し、箱ひげ図に表すことができる。 ○箱ひげ図と四分位範囲の特徴を理解する。 ○四分位範囲や箱ひげ図を用いてデータの分布の傾向を読みとり、批判的に考察し、判断できる。
2 月・ 3 月	9 ⑨	まとめ	○1年間のまとめ	○1年次の学習内容を理解している。

<図形>

月	単 元 名	主に学習すること	学習のねらい
4 ～ 9 月	16 4章 図形の性質の調べ方を考えよう [平行と合同] ③ (1) 説明のしくみ ⑤ (2) 平行線と角 ⑥ (3) 合同な図形 ① 章の問題	○多角形の角の和の説明 ○平行線と角 ○合同な図形の性質と表し方 ○三角形の合同条件 ○証明のすすめ方	○ n 角形の内角の和や外角の和の求め方を説明できる。 ○対頂角の意味と対頂角が等しいことを、論理的に筋道を立てて説明できる。 ○同位角と錯角の意味を理解し、平行線との関係を理解する。 ○三角形の内角の和が 180° であることや、核の大きさの求め方を、論理的に筋道を立てて説明できる。 ○平面図形の合同の意味とその性質を理解する。 ○三角形の合同条件を理解し、2つの三角形が合同かどうかを判断することができる。 ○ことがらの仮定と結論の意味を理解し、簡単な図形の性質を証明することができる。
9 ～ 3 月	21 5章 図形の性質を見つけて証明しよう[三角形と四角形] ⑧ (1) 三角形 ⑫ (2) 平行四辺形 ① 章の問題	○二等辺三角形の性質 ○二等辺三角形になるための条件 ○直角三角形の合同 ○平行四辺形の性質 ○平行四辺形になるための条件 ○特別な平行四辺形 ○平行線と面積	○二等辺三角形の2つの性質を証明できる。 ○正三角形の性質を証明できる。 ○2つの角が等しい三角形が二等辺三角形になることを証明できる。 ○ことがらの逆と反例の意味を理解する。 ○直角三角形の合同条件を理解し、図形の性質を証明できる。 ○平行四辺形の性質を証明できる。 ○平行四辺形の性質を利用して、図形の性質を証明できる。 ○平行四辺形になるための条件を証明できる。 ○平行四辺形になるための条件を利用して、図形の性質を証明できる。 ○長方形、ひし形、正方形と平行四辺形の相互関係を理解する。また、その性質を証明できる。 ○平行線の性質を利用して、図形を等積変形できる。

教 科	理 科	学 年	2 年
-----	-----	-----	-----

【教科の目標】

自然の事物・現象に進んでかわり、目的意識をもって観察、実験などを行い、科学的に探究する能力の基礎と態度を育てるとともに自然の事物・現象についての理解を深め、科学的な見方や考え方を養う。

【使用教材・副教材・使用教室・指導形態】

教科書（東京書籍）、理科便覧（浜島書店）、理科の自主学习2年（新学社）、基礎徹底64（新学社）
1・2年復習（正進社）、教室と理科室、一斉授業

【評価の観点と方法】

評価観点	評価規準	評価方法
知識・技能	自然の事物・現象についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	発言・ワーク・実験レポート ワークシート・小テスト・定期考査 ノート・パフォーマンスなど
思考・判断・表現	自然の事物・現象から問題を見だし、見通しをもって観察・実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。	発言・小テスト・定期考査 実験レポート・ワークシート ノートなど
主体的に学習に取り組む態度	自然の事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	授業態度・ワーク・小テスト 定期考査・実験レポート ワークシートなど

【授業の進め方と学習のポイント】

- 考え方を理解するとともに、「なぜそうなるか」と常に疑問を抱くことが大切です。
- 実験の過程を大切にしましょう。
- 発見の喜びを感じるようにしましょう。
- 予習 → 授業 → 復習 のサイクルを守りましょう。
- 授業では、ノートをとるだけでなく、説明をよく聞き大切なポイントはメモをする習慣をつけましょう。

【家庭学習の進め】

- その日に学習した単元項目について、ワークを活用して家庭学習の習慣をつけましょう。
- 定期考査は、授業中に使用したプリント・ワークから類似問題を出題しますので、試験勉強対策として、完全に理解するまで学習しましょう。

【学習の基盤となる資質・能力を身に付けた生徒の育成】

9つの マトリックス		資質・能力		
		知 技	思 判 表	人 間 性
学習 の 基盤	言 語 能 力			
	情 報 活 用 能 力		○	
	問題発見・解決能力			

【授業計画】

単 元 名	単元3 1章 気象観測
実 施 月	1 2月
実施学年	2年
授 業 者	佐藤 充彦
内 容	気象庁のサイトなどから近隣の気象データを調べる。調べたデータと観測結果を1つのグラフにまとめて表現、比較する。 (情報活用能力、思考力・判断力・表現力)

年間指導計画【化学・物理分野（70 時間） 足立担当】

月	単元名	主に学習すること	学習のねらい
4	⑧ 単元1 化学変化と原子・分子 1章 物質の成り立ち	○ホットケーキの秘密 ○水の分解 ○物質をつくっているもの ○分子と化学式	・物質のなり立ちについて、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、原子や分子と関連づけてその結果を分析して解釈し、化学変化における物質の変化やその量的な関係を見いだして表現する。
5	⑦ 2章 物質どうしの化学変化	○単体と化合物・物質の分類 ○異なる物質の結びつき ○化学変化を化学式で表す	・化学変化について、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、原子や分子と関連づけてその結果を分析して解釈し、化学変化における物質の変化やその量的な関係を見いだして表現する。
6	⑦ 3章 酸素がかかわる化学変化	○物が燃える変化 ○酸化物から酸素をとる化学変化	・酸化や還元の実験を通して、酸化や還元は酸素が関係する反応であることを見いだして理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身につける。
7	⑦ 4章 化学変化と物質の質量	○化学変化と質量の変化 ○物質と物質が結びつくときの物質の割合	・化学変化と物質の質量について、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、原子や分子と関連づけてその結果を分析して解釈し、化学変化における物質の変化やその量的な関係を見いだして表現する。
9	④ 5章 化学変化とその利用	○化学変化と熱	・化学変化によって熱をとり出す実験を通して、化学変化には熱の出入りがともなうことを見いだして理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身につける。
10	① 単元末	○学習内容の整理・確かめと応用	

月	単元名	主に学習すること	学習のねらい
10	⑦ 単元4 電気の世界 1章 静電気と電流	○静電気と放電 ○電流の正体 ○放射線の性質と利用	・静電気や放電に関する経験から課題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、静電気の性質や放電について規則性や関係性を見いだして表現する。
11	⑮ 2章 電流の性質	○電気の利用 ○回路に流れる電流 ○回路に加わる電圧 ○電圧と電流と抵抗 ○電気エネルギー	・電気に関する観察、実験を見通しをもって行い、電流と電圧に関する規則性や関係性を見いだして表現する。
12	⑮ 2章 電流の性質	○電気の利用 ○回路に流れる電流 ○回路に加わる電圧 ○電圧と電流と抵抗 ○電気エネルギー	・電気に関する観察、実験を通じて、回路の各点に流れる電流や、各部分の電圧について調べる技能を身につけるとともに、電流、電圧のはたらきを理解する。
1	⑮ 2章 電流の性質	○電気の利用 ○回路に流れる電流 ○回路に加わる電圧 ○電圧と電流と抵抗 ○電気エネルギー	・電気に関する観察、実験を通じて、回路の各点に流れる電流や、各部分の電圧について調べる技能を身につけるとともに、電流、電圧のはたらきを理解する。
2	⑬ 3章 電流と磁界	○電流がつくる磁界 ○モーターのしくみ ○発電機のしくみ ○直流と交流	・磁界と磁力線との関係、電流の磁気作用に関する基本的な概念を観察、実験を通して理解するとともに、それらの観察、実験の技能を身につける。
3	⑬ 3章 電流と磁界	○電流がつくる磁界 ○モーターのしくみ ○発電機のしくみ ○直流と交流	・電流と磁界に関する観察、実験を見通しをもって行い、実験結果を分析して解釈し、電流と磁界の規則性や関係性を見いだして表現する。
	① 単元末	○学習内容の整理・確かめと応用	

年間指導計画【生物・天気（70時間）佐藤担当】

4	⑨	単元2 生物のからだのつくりとはたらき 1章 生物と細胞	○水中の小さな生物 ○植物の細胞 ○動物の細胞	・植物のからだのつくりとはたらきとの関係に着目しながら、葉・茎・根のつくりとはたらきについて理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身につける。
5	⑩	2章 植物のからだのつくりとはたらき	○葉と光合成 ○光合成に必要なもの ○植物と呼吸	・植物のからだのつくりとはたらきについて、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、植物のからだのつくりとはたらきについての規則性や関係性を見いだして表現する。
6			○植物と水 ○水の通り道	
7	⑫	3章 動物のからだのつくりとはたらき	○消化のしくみ ○吸収のしくみ ○呼吸のはたらき ○血液のはたらき ○排出のしくみ	・動物のからだのつくりとはたらきとの関係に着目しながら、動物が生命を維持するはたらきについて理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身につける。
9			○刺激と反応 ○神経のはたらき ○骨と筋肉のはたらき	
10	⑤	4章 刺激と反応	○イカの解剖	・刺激と反応について、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、動物のからだのつくりとはたらきの規則性や関係性を見いだして表現する。
	①	単元末	○学習内容の整理・確かめと応用	

月	単元名	主に学習すること	学習のねらい
10	単元3 気象のしくみと天気の変化 ⑮ 1章 気象の観測	○気象の観測 学習基礎 ○大気圧と圧力 ○気圧と風 ○水蒸気の変化と温度	・気象要素と天気の変化との関係に着目しながら、気象要素、気象観測、霧や雲の発生などについての基本的な原理・法則などを理解するとともに、それらの観察・実験の技能を身につける。
11	⑦		
12	2章 雲のでき方と前線	○雲のでき方 ○気団と前線	・気象要素と天気の変化との関係に着目しながら、霧や雲の発生、前線の通過と天気の変化などについての基本的な原理・法則などを理解するとともに、それらの観察・実験の技能を身につける。
1	⑩ 3章 大気の動きと日本の天気	○大気の動きと天気の変化 ○日本の天気と季節風 ○日本の天気の特徴 ○天気の変化の予測 ○気象現象がもたらすめぐみと災害	・日本の気象、自然のめぐみと気象災害に関する事物・現象に進んでかかわり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養うとともに、自然を総合的に見ることができるようにする。
2			・日本の気象、自然のめぐみと気象災害について、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、天気の変化や日本の気象についての規則性や関係性を見いだして表現する。
3			
	① 単元末問題	○学習内容の整理・確かめと応用	

教科	英語	学年	2年	文責: 傳田 絵里香
----	----	----	----	------------

【教科の目標】

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成することを目指す。

【使用教材・副教材・使用教室・指導形態】

使用教材: 『NEW CROWN ENGLISH SERIES 2 』(三省堂)

副教材: 『Joyful Workbook 2』(新学社)、『Let's Enjoy BINGO 2 』(浜島書店)、
『学習の達成 英語2年』(新学社)、『みんなのサマー 英語2』(正進社)、
『みんなのウィンター 英語2』(正進社)

使用教室: 2年2組教室、2年3組教室、2年4組教室、2年5組教室、3階少人数英語室、3階英語室

指導形態: 少人数指導、必要に応じてTT指導

【評価の観点と方法】

観点	評価規準	評価の方法
知識・技能	外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解し、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる。	・定期考査(「知識・技能」の分野) ・単元テスト(「知識・技能」の分野) ・リスニングテスト ・パフォーマンステスト ・単語テスト 等
思考・判断・表現	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりできる。	・定期考査(「思考・判断・表現」の分野) ・単元テスト(「思考・判断・表現」の分野) ・リスニングテスト ・パフォーマンステスト 等
主体的に学習に取り組む態度	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ることができる。	・授業観察(言語活動への取り組み・コミュニケーションの継続) ・振り返りシートや宿題の取り組み状況 ・ノートやワーク等の提出状況 ・定期考査(主体的に学習に取り組む態度の分野) ・パフォーマンステストへの取り組み状況 等

【授業の進め方と学習のポイント】

- 授業の基本は、「先生の話をよく聞くこと」です。授業中の集中を大切にしましょう。
- 単語や表現は「聞く」→「話す」→「読む」→「書く」の順で覚えます。最初の「聞く」を大切に、あとのステップに繋げていきましょう。
- まず覚える、覚えたら使う、使う場面を想定して学習するようにしましょう。
- わからない文法事項は、理解できるよう復習と見直しを行ないましょう。
- 授業中に使ったプリントは、きちんとファイルに保管して復習に活用できるようにしましょう。
- 授業準備、課題の提出期限をしっかりと守りましょう。

【家庭学習のポイント】

○家庭学習では、次のことをやりましょう。

- ①デジタル教科書の音声を聞きながら音読練習（目安は1ページにつき5回）
- ②音読しながら本文をくりかえし書く練習(目安は1ページにつき2回)
- ③単語練習(日本語を見て英語を正しく書けるようになるまで)
- ④ワークを解く（自力で解く→教科書等を見ながら解く→答え合わせ）
- ⑤テストの間違い直し（間違えた理由や文法事項を確認する）

○その日に習ったことを復習することや、宿題などをコツコツやりましょう。語学習得は、「1週間分をまとめて1回」ではなく、「毎日少しずつコツコツ」が大切です。

○英単語・英熟語・英文を何度も声に出して読み、音とスペルを一致させて覚えるようにしましょう。

○各種検定に積極的にチャレンジしよう！

○配布されたプリントはファイルに入れて、学習に生かしましょう。

○提出物は提出期限を必ず守りましょう。

【学習の基盤となる資質・能力を身に付けた生徒の育成】

9つのマトリックスの整理		資質・能力		
		知・技	思・判・表	学びに向かう力
学習の基盤	言語活用能力	1	②	3
	情報活用能力	4	5	6
	問題発見力・解決力	7	8	9

【授業計画】

単元名	Reading Lesson 2 バーチャルツアーの案内
実施月	12月
実施学年	2年
授業者	傳田 絵里香
内容	バーチャルツアーの案内を読み、自分が必要とする情報を読み取り、表現する。

【年間指導計画(2年英語140時間)】 学習の基盤となる資質・能力の育成を意識した授業＝**学習基盤**

月	単元名	主に学習すること	学習のねらい
4	Lesson 1 Meet New Friends バスケット部へようこそ	未来形 will 未来形 be going to	・助動詞 will、be going to ...を理解し、それを含む文を聞いたり、読んだりして、内容を捉えることができる。 ・助動詞 will、be going to ...を理解し、それを含む文を用いて話したり、正確に書いたりすることができる。 ・詳しい説明や感想をつけ加えて、まとまりのある内容を話すことができる。
5	Take Action! Listen1 空港のアナウンス Take Action! Read1 博物館のイベント Lesson2 Fun with Books お気に入りの本	接続詞 (when / if / that)、be sure (that) ... 日本語の勉強に役立ちそうな本や物語を紹介する。[意見文]	・空港のアナウンスを聞いて、必要な情報を捉えることができる。 ・博物館のイベントの案内を読んで、必要な情報を捉える。 ・接続詞 when や if、接続詞 that、(be sure that ...)を理解し、それを含む文を聞いたり、読んだりして、内容を捉えることができる。 ・接続詞 when や if、接続詞 that、(be sure that ...)を理解し、それを含む文を用いて話したり、正確に書いたりすることができる。 ・トークテーマについて即興で伝え合ったり、質問に回答したりすることができる。 ・すすめる理由をつけ加えて、まとまりのある文章を書くことができる。
6	Take Action! Listen2 コンサートのお知らせ Take Action! Talk1 買い物		・チャリティーコンサートの案内を聞いて、要点を捉える。 ・店で買い物をする。／要望に合わせて提案する。
	Lesson3 My Dream 将来の夢	to 不定詞、must / must not ... 将来したいことにことについて、やり取りする。 ウェブマガジンの記事の概要を読み取る。[物語文]	・to 不定詞(名詞用法・副詞用法・形容詞用法)、must ... / must not ...を理解し、それを含む文を聞いたり、読んだりして、内容を捉えることができる。 ・to 不定詞(名詞用法・副詞用法・形容詞用法)、must ... / must not ...を理解し、それを含む文を用いて伝え合ったり、話したり、正確に書いたりすることができる。 ・トークテーマについて即興で伝え合ったり、質問に回答したりすることができる。 ・記事を読んで、概要を捉えることができる。
7	Take Action! Listen 3 ボイスメッセージ	ボイスメッセージを聞いて、必要な情報を捉える。	・ボイスメッセージを聞いて、必要な情報を捉える。
	Project 1 スピーチ「My Dream」	将来したいことや、夢についてスピーチする。	・自分が将来したいことや夢について、伝えたいことを整理し、理由やきっかけをつけ加えて、まとまりのある内容を話すことができる。
	Reading Lesson 1 The Tale of Peter Rabbit	概要を読み取る。[物語文]	・物語のあらすじをまとめるために、気持ちの移り変わりに着目し、ピーターラビットの冒険物語を読んで、概要を捉えることができる。
9	Lesson4 Safe Clean Water 安全できれいな水	There is [are]、動名詞 have to / do not have to ... 身近な環境問題をレポートにまとめる。[意見文]	・There is [are]、動名詞、have to ... / don't have to ...を理解し、それを含む文を聞いたり、読んだりして、内容を捉えることができる。 ・There is [are]、動名詞、have to ... / don't have to ...を理解し、それを含む文を用いて話したり、正確に書いたりすることができる。 ・トークテーマについて即興で伝え合ったり、質問に回答したりすることができる。 ・問題点と解決策を整理して、まとまりのある文章を書くことができる。
	Take Action! Listen 4 ラジオニュース		・ラジオニュースを聞いて、概要を捉える。
	Take Action! Talk2 話し合い		・山に遊びに行ったらしたいことや、修学旅行のお土産について話し合う。

10	Lesson5 Visiting Australia オーストラリア旅行	動詞(show / call など)+ A + B、show you how to ... 町のおすすめの場所について、やり 町や地域の魅力を伝える動画を作る。[説明文]取りする。	・動詞(show, call, make など)+A+B)、<how+to+動詞の原形>を理解し、それを含む文を聞いたり、読んだりして、内容を捉えることができる。 ・動詞(show, call, make など)+A+B)、<how+to+動詞の原形>を理解し、それを含む文を用いて伝え合ったり、話したり、正確に書いたりすることができる。 ・トークテーマについて即興で伝え合ったり、質問に回答したりすることができる。 ・おすすめの場所やイベントについて、複数の詳しい情報をつけ加えて、まとまりのある内容を話すことができる。
	Take Action! Talk 3 電車の乗り換え案内	駅で困っている旅行者に、電車の乗り換えを案内する。	・行き方をたずねる」「行き方を説明する」表現の意味や働きを理解し、それを含む文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりする。
11	Take Action! Read 2 オンラインショッピング		・オンラインショップのウェブサイトを読んで、必要な情報を捉える。
	Lesson6 Friends from Singapore 姉妹校から来た友だち	比較級、最上級 メールの要点を読み取る。[意見文]	・形容詞の比較級・最上級(-er / -est) (more / most)、同等比較(as ... as ~)を理解し、それを含む文を聞いたり、読んだりして、内容を捉えることができる。 ・形容詞の比較級・最上級(-er / -est) (more / most)、同等比較(as ... as ~)を理解し、それを含む文を用いて伝え合ったり、話したり、正確に書いたりすることができる。 ・メールを読んで、要点を捉えることができる。
12	Project 2 人気のあるものの調査		・日本のおすすめの食べ物をランキングにして紹介する。
	Reading Lesson 2 Online Experiences	平易な文	・バーチャルツアーの案内を読んで、概要を捉える。
1	Lesson7 Gifts from China 中国のおみやげ	現在完了形(経験)、tell A + that ... おすすめのお土産について、やり取りする。 海外からの旅行者に紹介したい商品の説明を書く。[説明文]	・現在完了形(経験用法)の肯定文・疑問文・否定文、<tell+A+that ...>を理解し、それを含む文を聞いたり、読んだりして、内容を捉えることができる。 ・現在完了形(経験用法)の肯定文・疑問文・否定文、<tell+A+that ...>を理解し、それを含む文を用いて話したり、正確に書いたりすることができる。 ・即興で伝え合ったり、質問に回答したりすることができる。 ・商品について、特徴を整理した上で説明を加えて、まとまりのある文章を書くことができる。
	Take Action! Listen 5 冒険家のインタビュー		・インタビューを聞いて、要点を捉える。
2	Lesson8 Rakugo Goes Overseas ”落語”から”rakugo”	現在完了形(完了・継続) 新聞のインタビュー記事の要点を読み取る。[意見文]	・現在完了形(完了用法・継続用法)の肯定文・疑問文を理解し、それを含む文を聞いたり、読んだりして、内容を捉えることができる。 ・現在完了形(完了用法・継続用法)の肯定文・疑問文を理解し、それを含む文を用いて話したり、正確に書いたりすることができる。 ・インタビュー記事を読んで、要点を捉えることができる。
	Project 3 好きなもの×観光マップ		・テーマを決めて、紹介したいものや訪れてほしい場所をまとめた観光マップを作る。
3	Reading Lesson 3 A Pot of Poison	概要を読み取る。[物語文]	・物語のあらすじと登場人物の性格をまとめるために、(登場人物に着目し、)小僧と和尚の物語を読んで、概要を捉えることができる。

教 科	音 楽	学 年	2 年	文責：中村 麻里
-----	-----	-----	-----	----------

【教科の目標】

- ・仲間と協力して表現をつくりあげる音楽活動の喜びを体験することを通して、音や音楽に対する興味・関心を高める。
- ・曲想や背景、楽曲構造を理解させ、創意工夫を生かした音楽表現をさせる。
- ・多様な時代や国の音楽の学習を通して、音楽が人々の生活や文化に果たす役割について考えを深めさせる。

【使用教材・副教材・使用教室・指導形態】

使用教材：音楽の教科書（教育芸術社・教育出版）、MYSONG（教育芸術社）、音楽のハーモニー（正進社）、ファイル
 使用教室：第1音楽室、第2音楽室
 指導形態：一斉指導、グループ活動

【評価の観点と方法】

	評価規準	評価方法
知識・技能	・曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。 ・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身につけ、歌唱、器楽、創作で表している。	・ワークシート ・観察 ・実技テスト ・定期考査
思考・判断・表現	・知識・技能を生かし、曲にふさわしい音楽表現を創意工夫している。 ・音楽を評価しながら、よさや美しさについて説明している。	・ワークシート ・観察 ・実技テスト ・定期考査
主体的に学習に取り組む態度	・主体的・協働的に音楽活動に取り組み、体験を通して、音楽によって生活を明るく豊かなものにし、音楽に親しんでいこうとしている。	・観察 ・ワークシート

【授業の進め方と学習のポイント】

- 音楽を聴くときは、いつも「どのような特徴があったか」、「どのような感じがしたか」を意識して聴き、言葉にして表現してみましょう。
- 音楽を表現するときは、基本的な技能の習得だけでなく、「意思の強さを伝えるために、ここははっきりと発音して歌おう」というように、曲の思いや意図を表現するために創意工夫をしよう。
- 授業では皆さんの発言を取り入れながら進めます。是非積極的に挙手して発言しましょう。また、仲間の意見もメモし、表現の幅を広げましょう。

【家庭学習の進め方】

- 教科書やワークシートを見て、授業で学習した内容を復習しましょう。
- 実技は、基本的な歌唱方法や表現の工夫を意識して練習しましょう。音程や歌詞は覚えましょう。

【学習の基盤となる資質・能力を身につけた生徒の育成】

9つの マトリックス		資質・能力		
		知・技	思・判・表	人間性
学習 の 基盤	言 語 能 力	1	②	3
	情 報 活 用 能 力	4	5	6
	問題発見・解決能力	7	8	9

【授業計画】

単 元 名	混声三部合唱の響きを味わい、表現を工夫して歌おう
実 施 月	10月
実施学年	2年
授 業 者	中村 麻里
内 容	楽曲の特徴を理解し、今までの知識・技能を生かして表現を工夫する。

【年間指導計画（音楽）】

	時間	単元名	主に学習すること	学習のねらい
4月	3	正しい発声を確認しよう。 ・音楽科のルール、合唱の基本、楽典の基礎 ・発声練習の仕方 ・「校歌」	・基礎の姿勢、表情、発声方法 ・校歌の旋律、強弱、歌詞の意味について	・音楽の基礎知識を身につけて、多様な表現に生かす。 ・歌唱の正しい姿勢と発声方法を身につける。
5月	3	曲想と歌詞の内容との関わりを理解して、歌唱表現を工夫しよう ・「サンタルチア」	・歌詞の内容について ・拍子や速度、強弱変化について ・作曲背景について	・歌詞の内容を味わわせ、言葉のフレーズを生かして歌う。 ・曲想の雰囲気を感じ取り、歌詞の内容と結びつけて歌唱表現をする。
6月	3	クラシックギターの基本的な奏法を身につけて演奏しよう ・「Happy Birthday to You」	・基本的な奏法 ・ギターの音色を聴き取って表現につなげる	・ギターの美しい音色を味わう。 ・「Happy Birthday to You」の演奏をとって、正しい奏法を身につける。
	3	オーケストラの響きを味わおう。 ・ベートーヴェン「交響曲第5番」	・作曲者、作曲背景 ・オーケストラの楽器・音色 ・曲の形式、構成	・オーケストラの楽器の種類や、音色の特徴・魅力について理解する。 ・交響曲の形式や構造のよさや美しさを味わう。
7月	11	学習発表会に向けて ・合唱曲 学習基盤	・各声部の役割 ・全体のハーモニーづくり	・歌詞の内容や曲想を感じ取り、表現を創意工夫する。 ・声部の役割を理解し、全体の響きを考えて表現する。
9月				
10月				
11月	4	連合音楽会に向けて ・合唱曲	・各声部の役割 ・全体のハーモニーづくり	・声部の役割を理解し、全体の響きを考えて表現する。 ・歌詞の発音をはっきりと強調させる。
12月				
1月	2	フーガの形式を理解してパイプオルガンによる表現を鑑賞しよう ・「小フーガト短調」	・パイプオルガンの音色や特徴 ・フーガの構成	・フーガの構造について理解し、楽曲の魅力について考えを深める。 ・パイプオルガンの特徴や音色を理解し、美しさを味わって鑑賞する。
2月	3	構成を生かして旋律創作をしよう ・「荒城の月」	・形式について ・和音や和音進行について	・形式や旋律の動きを理解し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受する。 ・和音の響きや形式を生かして旋律を創作する。
3月	3	三送会、卒業式に向けて ・「蛍の光」他	・各声部の役割 ・全体のハーモニーづくり ・パート練習の仕方 ・楽曲の基礎知識	・これまでの学習内容を総合的に生かして、自主的に協力して取り組むことができるようにする。 ・声部の役割を理解し、全体の響きを感じ取って歌うようにさせる。 ・歌詞の内容や曲想を感じ取り、心を込めて歌うようにさせる。

教 科	美術	学 年	2 年	文責：田邊 大地
-----	----	-----	-----	----------

【教科の目標】

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、美術の創造活動の喜びを味わい美術を愛好する心情を育てるとともに感性を豊かにし、美術の基礎的な能力を伸ばし、美術文化についての理解を深め、豊かな情操を養う。

【使用教材・副教材・使用教室・指導形態】

○感じる表す美術（浜島書店） ○教科書 ○美術室 ○一斉授業 ○個別指導

【評価の観点と方法】

評価観点	評価規準	評価方法
知識・技能	・美術の基礎的技能を生かし、表現するための技能を新たに習得することができる。 ・日本及び諸外国の美術や美術文化を理解し国際理解を深めることができる。 ・生活や社会における美術の働きについて理解することができる。 ・制作順序など見通しをもち制作することができる。 ・用具を適切に扱うことができる。	・作品 ・ワークシート ・定期考査 ・鑑賞ワークシート ・鑑賞レポート
思考・判断・表現	・題材に応じて発想力や想像力を働かせ、問題解決への道筋を立て、表現力を働かせて解決することができる。 ・造形的な視点で見つめて、感じたことや考えたことを言葉で表現することができる。	・作品 ・ワークシート ・定期考査 ・アイディアスケッチ ・鑑賞ワークシート
主体的に学習に取り組む態度	・活動に関心を持ち、授業に取り組むことができる。 ・意欲的に美術の能力を身につけようとしている。 ・提出物の提出期限を守ることができる。	・授業態度 ・ワークシート ・定期考査

【授業の進め方と学習のポイント】

○作品は制作過程も大切です。その授業ごとの目標を押さえ、達成できるよう努力しましょう。また、途中で放棄せず自分なりの完成を目指しましょう。

○作品は限られた時間の中で制作するので、見通しをもって計画的に進めましょう。

○目標に向けて構成を練り、身に付けた技能を発揮する力を身に付けようとしましょう。

○表現や鑑賞の基本的な知識をしっかりと学び、身に付けましょう。

【家庭学習の進め】

○日頃の生活の中で、何かを見たり聞いたり触れたりしたときに、自分なりに感じ取る感性を大切にし、身の回りにあふれる色や形に関心を持ちましょう。

○美術館や展覧会にも積極的に行き、感性や造形的視点を磨きましょう。

【学習の基盤となる資質・能力を身に付けた生徒の育成】

9つのマトリックス		資質・能力			単元名	ピカソとキュビズム
		知・技	思・判・表	人間性	実施月	4月
学習 の 基盤	言語能力	1	2	3	実施学年	2年
	情報活用能力	4	⑤	6	授業者	田邊 大地
	問題発見・解決能力	7	8	9	内容	ピカソの作品の鑑賞を通して身につけた造形的な見方・考え方を基に作品鑑賞をする。

月	単元名	主に学習すること	学習のねらい
4	1	1.オリエンテーション	○授業の評価について理解することができる。
5	1	2.ピカソとキュビズム	○ピカソの作品の鑑賞 見方・考え方を深める。
	1	3.デッサン（素描）について	○鉛筆の使い方、デッサンの表現について ○マークのデザインについての知識を身につける。
6	6	4.クロッキー・デッサン	○クロッキー、デッサンを通してモチーフをよく観察する。 ○漫画の表現について ○鉛筆の使い方を身につける。素描での表現について学ぶ ○クロッキー、デッサンを通して造形的な視点で観察する力を身につける
7	2	6.ポスター制作	○ポスターを使い伝えたい内容を伝えることについて ○色や形、文字を使いポスターを使いデザインする力を身につける。
(11)			
9	1	7.構成と装飾	○デザインの構成と装飾について ○構成と装飾を考えデザインする力を身につける。
10	1	8.版画の種類	○版画の種類や表現方法について ○版画の種類や表現方法についての知識を身につける。
	6	9.シルクスクリーン	○シルクスクリーンの技法を使い構成や装飾について ○シルクスクリーンの技法を使い構成と装飾を考えデザインする力を身につける。
11	2	10.鑑賞	○制作した作品を鑑賞する ○造形的な視点で見方・考え方を深める。
12	3	11.銀座Tシャツデザイン	○デザインの構成と装飾について ○構成と装飾を考えデザインする力を身につける。
(13)			
1	2	12.色々な彫刻:ロダン	○彫刻作品、ロダンの作品の鑑賞 ○彫刻作品、ロダンの作品を通して造形的な見方・考え方を深める。
2	6	13.立体の表現	○彫刻を通して立体の表現について学ぶ ○彫刻を通して立体表現をする力を身につける。
3	2	14.1年間の振り返り	○1年間で制作した作品を振り返る ○1年間で制作した作品を振り返り、今後の学習に活かす。
(10)			

中央区立銀座中学校年間シラバス

教 科	保健体育科	学 年	2 年	文 責	市 川
-----	-------	-----	-----	-----	-----

【教科の目標】

体育的活動・保健の授業を通して、スポーツや体を動かす喜びを味あわせる。また身体や健康に関する知識、理解を深めさせる。本校の保健体育科で育てたい生徒像は以下の通りである。

- ◇自分で健康の保持・増進、安全に配慮できる生徒。
- ◇自分で体力づくりができる生徒。
- ◇積極的に運動に親しみ、生涯にわたってスポーツを楽しむことができる生徒。
- ◇苦しさを乗り越えて問題を解決することのできる生徒。

【使用教材・副教材、使用教室・指導形態】

- ◇使用教材：保健体育教科書（東京書籍）、図解中学保健体育（あかつき）、保体資料ノート
- ◇使用教室：各教室、体育館、校庭、屋上プール、屋上運動場
- ◇指導形態：一斉授業、課題別グループ学習、習熟度別グループ学習

【評価の観点と資料】

観 点	評 価 規 準	評 価 資 料
知識・技能	・運動の合理的な実践に関して具体的な事柄や生涯に渡って運動を豊かに実践するための理論について理解している。 ・運動の特性に応じた基本的な技能を身に付けている。 ・個人生活における健康・安全について科学的に理解し、基本的な技能を身に付けている。	◇授業への参加姿勢や取り組み ◇学習カード ◇発表・発言 ◇宿題・ノート提出 ◇定期考査
思考・判断・表現	・自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて、課題に応じた運動の取り組み方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫し、それらを他者に伝えている。 ・個人生活における健康に関する課題を発見し、その解決を目指して科学的に思考し判断しているとともに、それらを他者に伝えている。	◇技能向上の取り組み ◇安全管理への配慮 ◇学習カード ◇定期考査 ◇発表・発言 ◇学習カード
主体的に学習に取り組む態度	・運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう、運動の合理的な実践に主体的に組もうとしている。 ・健康を大切にし、自他の健康の保持増進や回復についての学習に自主的に取り組もうとしている。	◇話を聞く姿勢・態度 ◇定期考査 ◇学習カード ◇授業観察

【授業の進め方と学習のポイント】

- ◇基礎・基本を大切にして、関心・意欲を高める。
- ◇基礎体力の向上と各種の運動技能の習得を図る。
- ◇準備や片付けをみんなで協力して行う態度を養う。
- ◇自己の能力を分析し、練習を工夫してその能力を高めることができる。
- ◇習熟度別の授業形態を工夫する。

【家庭学習の進め方】

日頃から新聞やテレビ、インターネットなどでスポーツニュースに親しむ。特にそのシーズンのスポーツや全国的、世界的に活躍している人物や競技を調べると良い。

【学習の基盤となる資質・能力を身に付けた生徒の育成】

9つの マトリックス		資質・能力		
		知・技	思・判・表	人間性
学習 の 基盤	言 語 能 力	1	2	3
	情 報 活 用 能 力	4	5	6
	問 題 発 見・解 決 能 力	7	⑧	9

単 元 名	武道（柔道）
実 施 月	1 月
実 施 学 年	2 年
授 業 者	市川
内 容	自分の実技を行っている映像から課題を見付け解決し技術の向上を図る

【年間指導計画（年間105時間）】＜2年＞

月	単 元 名	主に学習すること	学習のねらい
4月	⑤ *集団行動 体力測定	・集合隊形、基本姿勢 ・準備運動、ラジオ体操 体力テストの測定	・体育活動を行う集団としての素速さ や合理性を高める
5月	⑧ *体育大会種目練習	・短距離走、リレー、	・自己の能力に適した課題をもって練習 し、自己の記録を向上させる
6月	⑧ *陸上競技【A】	・ハードル	・自己の能力に適した課題をもって練習 し、自己の記録を向上させる・個 人的技能や集団技能を練習やゲーム の中で仲間と協力して高める。
	⑩ *球技1・走り幅跳び	・バスケットボール、走り幅跳 び ・競技の中での効率的な動き	・自己の能力の向上を目指し努力する
7月	③ *ボッチャ		・自己やチームの特徴に応じて、作戦 を立て、役割に応じた活動をする。
	⑩ *水泳	・基本技能の習得 ・戦略的知識の習得 ・泳法（クロール、平泳ぎ、背 泳ぎ）	・水に親しみ楽しく泳ぎ、自己の能力 に適した課題を考えて練習する ・記録測定では自己の記録の向上を目 指し努力する。 ・自己の能力に適した課題をもって練 習し、自己の記録を向上させる
	⑧ *傷害の防止	・傷害の発生要因、交通事故の 発生要因、応急手当の意義と方法等	・傷害の発生要因、傷害の防止、応急 手当の意義を知り、危険の予測や回避 の方法を考え、表現する。
9月	③ *運動やスポーツの 意義や効果と学び方 や安全な行い方	・運動やスポーツの効果、運動 やスポーツの学び方等	・運動やスポーツの効果や学習法、安全 の必要性を知る。 ・自己の能力に適した課題を設定して 集団としての表現をしていく。
10月	⑩ *ダンス【C】	・創作ダンス	
11月	⑧ *器械運動【B】 （マット、跳び箱運 動）・球技2	・基本技能の習得 ・効率的な動き ・技の組み合わせ、連続技	・基本的な技能を身に付けさせる。 ・自己の能力に適した課題を設定して 楽しく安全に協力して練習に取り組 む。
12月	⑩ *球技3・4	・バレーボール ・サッカー ・バスケットボール ・ハンドボール	・個人的技能や集団技能を練習やゲー ムの中で仲間と協力して高める ・基本技能を高めるとともに、パスを 効率よく使いチームとして多彩な攻 めができるようになる。
	⑧ *健康な生活と疾病 の予防②	・生活習慣病の起こり方、生活 習慣病の予防等	・生活習慣と関連の深い疾病の予防や 飲酒、喫煙などと健康の関わりにつ いて知る。
1月	⑧ *武道（柔道）	・受身、固め技、投げ技	・基本的な技能を身に付けさせる。 ・自己の能力に適した課題を設定して 楽しく安全に協力して練習に取り組 む。
2月			・基本技能、安全を重視した試合をす る
3月	⑥ *陸上競技	・長距離走 ペース走、走り方、呼吸法	・個人的技能身に付け練習や記録測定 の中で仲間と協力してできる

教 科	技術科	学 年	2 年	文責：内田 哲博
-----	-----	-----	-----	----------

【教科の目標】

生活の営みに係る見方・考え方や技術の見方・考え方を働かせ、生活や技術に関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を育成することを目指す。

【使用教材・副教材・使用教室・指導形態】

◇技術・家庭「技術分野」（開隆堂） ◇地下1階 木工室・金工室
◇エネルギー変換の技術 ◇生物育成の技術 ◇情報の技術

【評価の観点と方法】

	評価規準	評価方法
知識・技能	エネルギー変換、生物育成、情報の技術について理解するとともに、それらに関わる技能を身に付けている。	◇作品 ◇課題等提出物内容 ◇定期考査
思考・判断・表現	エネルギー変換、生物育成、情報の技術について、生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	◇作品 ◇課題等提出物内容 ◇小テスト ◇定期考査
主体的に学習に取り組む態度	エネルギー変換、生物育成、情報の技術を活用し、よりよい生活の社会や持続可能な社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。	◇作品 ◇課題等提出物内容

【授業の進め方と学習のポイント】

- 座学での内容を踏まえて、製作・作業実習に入るので、授業内容をよく理解し、不明な点・疑問な点はその日のうちに解決すること。
- 授業の基本として、先生の話をよく聞き、授業内容に疑問を持つ程度に真剣に取り組むこと。
- 作業は安全を第一として参加すること。
- 作業は座学の内容を十分復習をして、作業の目的をはっきりと認識して取り組むこと。
- 提出物・作業は期限を守ること。
- 定期考査の前には、プリントをよく参照すること。

【家庭学習の進め方】

一番大切なことは、授業内容の理解です。プリントの内容や授業中の解説を復習するとともに、新たな言葉は調べ学習なども行い理解を深めることが大切です。
図面や専門用語の多いことが特徴の教科です。特殊な言い回しや用語を覚えると先生との授業中の会話に無駄がなくなります。
思考・判断・表現についての力を身につけるためには、社会での技術の活用を知ること大切です。授業で学んだ内容が家庭生活や社会の中で、どのように使われ、私たちの生活を豊かにしているか、テレビや新聞などで、情報収集をしましょう。

【学習の基盤となる資質・能力を身に付けた生徒の育成】

【授業計画】

9つの マトリックス		資質・能力		
		知 技	思 判 表	人 間 性
学習 の 基盤	言 語 能 力			
	情 報 活 用 能 力			
	問題発見・解決能力		○	

単 元 名	生物育成の技術 2. 育成計画
実 施 月	6 月
実施学年	2 年
授 業 者	内田 哲博
内 容	複数の生育環境で豆苗を育成した結果から、収量を上げるための改善案を考える。

●2 年生

時間	指導項目（単元名）	学習内容	学習のねらい
1	C 生物育成の技術	生物育成の技術とは何だろう	■生物育成の技術の目的を知る。 ■生物育成の技術の種類について知る。
2		作物の育成環境を調節する技術	■作物の育成環境を調節する技術について知る。
3		作物の成長を管理する技術	■作物の成長を管理する技術について知る。 ■作物の成長を管理する技術とその目的についてまとめることができる。
4		動物を育てる技術	■人と動物との関わりについて知る。 ■家畜としての動物の利用方法を知る。
		水産生物を育てる技術	■水産生物を安定的に供給するための養殖の技術について知る。 ■水産生物を健康に育てるための技術を知る。
5	生物育成の技術による問題解決	問題を発見し、課題を設定しよう	■生物育成の技術に込められた問題解決の工夫について考えることができる。
6	実習：スプラウト（豆苗）の栽培	生物の育成計画を立てよう	■生物を育てる目的を考え、生物の成長に合わせた育成計画を立てることができる。
7		生育環境による植物の成長の違いを確かめよう <u>学習基盤</u>	■安全に配慮し、成長の状態に合わせて、適切な管理作業を行うことができる。
8			■管理作業の内容や成長過程を、栽培記録表にまとめることができる。
9			■栽培の結果から、収量を増やすにはどうしたらよいかを提案することができる。
10			
11	社会の発展と生物育成の技術	生物育成の技術の最適化	■自分の問題解決における最適化の場面を振り返り、社会の問題解決における最適化と比較する。
12	B エネルギー変換の技術	エネルギーとエネルギー変換	■生活や社会の中で利用されているエネルギー変換の技術について知る。
13		エネルギー資源の種類	■エネルギー資源について知る。
14		発電の仕組みと特徴	■さまざまな発電の仕組みと特徴について知る。
15		電気を供給する仕組み	■電源の種類と特徴について知る。 ■送電・配電について知る。
16		電気機器を安全に使用するための技術	■電気を安全に使うための技術の工夫について知る。 ■電気機器の安全な使い方を知ることができる。
17	エネルギー変換の技術の原理・法則と仕組み	回転運動と機械が動くしくみ	■機械が運動を伝える仕組みについて知る。 ■回転速度と回転力の関係を知る。 ■往復直線運動や揺動運動などを伝えるリンク機構やカム機構の仕組みを知る。
18		デジタル時計のしくみと工具の使用法	■製作品のエネルギー変換のしくみを知り、構想を確認する。 ■工具の使用法を知る。
19		回路の設計	■製作品の回路と本体の設計を確認する。
20		回路の製作	■回路に使用されている各部品の役割を知る。 ■工具を使用してはんだづけを行い、回路を製作することができる。
21	実習：センサ搭載型デジタル時計の製作		

22			組み立て 点検	■ドライバーの使用方法を知り、ネジ止めを行うことができる。 ■回路計を用いて回路の安全点検を行うことができる。
23		エネルギー変換の技術による問題解決 (エネルギーミックスによる効率的な発電計画)	問題を発見し、課題を設定しよう	■発電における問題を様々な視点から見だし、課題を設定することができる。
24 25			持続可能な社会のための発電計画を立てよう	■発電効率や環境負荷を考慮し、エネルギーミックスによる効率的な発電計画を作成することができる。
26			発表および相互評価	■自身が作成した発電計画と他者の計画を比較し、自身の計画を適切に評価し、最適化を計ることができる。
27			これからのエネルギー変換の技術	■持続可能な社会の構築のために、これからのエネルギー変換の技術について考えることができる。
28	D 情報 の 技 術	情報の技術の原理・法則と仕組み	計測・制御システムの基本	■日身の回りにある計測・制御システムを知る。 ■計測・制御システムの基本的な構成と情報の流れを知る。
29			計測・制御の基本プログラム	■計測・制御システムにおける基本的なプログラムの形や、役割を知る。
30		情報の技術による問題解決 (教室内の環境改善を行うための計測・制御システムを考えよう)	問題を発見し、課題を設定しよう	■計測・制御システムによって解決できる問題を見つけることができる。 発見した問題を解決するための課題を設定することができる。
31			計測・制御システムを構想しよう	■問題を解決するための計測・制御システムに必要な情報を収集し、解決策を具体化することができる。
32 33 34			計測・制御システムのプログラムを制作しよう	■安全で適切なプログラムの制作と動作の確認、デバッグができる。 ■エネルギー変換の技術による問題解決の学習を生かして、自動化・システム化が実現するプログラムを制作することができる。
35		発表および相互評価	■自身が作成したシステムと他者のシステムを比較し、自身の計画を適切に評価し、最適化を計ることができる。	

※学校行事、授業の進捗状況、材料の入荷状況により、学習内容の順番を入れ替えることがあります。

教科	家庭科	学年	2年	文責：大島久美子
----	-----	----	----	----------

【教科の目標】

生活についての理解を深め、家族や家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活の自立に必要な基礎的な理解を図り、それらに係る技術を身に付ける。実践的・体験的な活動を通して、課題を見つけて解決したり、考察したことを論理的に表現したりして、生涯を見通して課題を解決する力を身につける。家族や地域の人々の関わりを考え、協働し、よりよい生活の実現に向けて生活を工夫する実践的な態度を身につける。

【使用教材・副教材、使用教室・指導形態】

◇技術・家庭 家庭分野（開隆堂）、技・家ノート 家庭分野（開隆堂）、プリント、ノート
 ◇各教室、被服室、調理室（感染症の状況を踏まえ使用検討する） ◇一斉授業、グループ学習指導

【評価の観点と資料】

観点	評価基準	評価資料
知識・技能	生活と技術について理解しているとともに、それらに係る技術を身に付けている。	定期考査・作品・課題等提出物内容
思考・判断・表現	生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	プリント・定期考査・課題等提出物内容
主体的に学習に取り組む態度	よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返ったり改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。	プリント・製作の進捗状況及び態度・課題等提出物内容

【授業の進め方と学習のポイント】

- 授業は、板書を写すだけではなく、説明をよく聞き、新しい知識をメモしたり、自分の意見を書き足したりして知識・理解を深めること。
- 一斉授業やグループ学習では、発表や発言に進んで参加すること。
- 実習などの活動では、班員と協力して計画的に行うこと。
- 実習などの活動では、教員の指示や被服室、調理室の使用方法に従い安全に作業すること。
- 提出物の期限を守ること。忘れ物をしないこと。
- 実習や授業のねらいを理解し、生活に活用させること。
- 定期考査前は、言葉を暗記するだけでなく、自分の家庭生活を振り返り生活と照らし合わせて思考すること。

【家庭学習の進め方】

- ① 課題は丁寧に取り組むこと。その時の発見・気づきを大切にすること。
- ② 授業で習ったこと、自分で実践できることを家庭で積極的に行い復習すること。
- ③ 授業で学んだ内容が家庭生活や社会の中で、どのように使われ、私たちの生活を豊かにしているか、テレビや新聞などで、情報収集をすること。また、情報を生活に活用させること。
- ④ 社会や地域・家庭生活について関心を持ち、気になったことはメモをとり調べる習慣をつけること。

【学習の基盤となる資質・能力を身に付けた生徒の育成】

【授業計画】

9つの マトリックス		資質・能力		
		知 技	思 判 表	人間性
学習 の 基盤	言 語 能 力			
	情 報 活 用 能 力			
	問題発見・解決能力		○	

単 元 名	災害への備え
実 施 月	10 月
実施学年	2 年
授 業 者	大島久美子
内 容	災害時に考えられる家庭の問題を考え、解決策などを考える。

【年間指導計画（年間 35 時間）】

週	単元名	主に学習すること	学習のねらい	
1	B 衣食住の生活【住生活】 住まいのはたらきと こちよさ	ガイダンス 1. 住まいのはたらき	住まいの基本的役割について理解する。	
2		2 気候風土に合わせた住 まい	日本の伝統的な住まいの特徴について知る。	
3				
4			3. 住まいの空間	住まいの空間の使い方について理解する。
5			4. 和式の住まい方	和式のすまい方を知り、様々な生活によって住まい方の工夫があることを理解する。
6	B 衣食住の生活【住生活】 安全な住まいで安心 な暮らし	1. 健康と室内環境	室内の空気が汚れてしまう原因を知り、健康に配慮にした住まいを考える。	
7				
8		2. 家庭内事故への備え	家庭内の事故の種類とその原因、防火や防犯の原因を知り、安全を意識した住まいの工夫を考える。	
9				
10	B 生活を豊かにする ために	1. 作って楽しい布製品 2. 防災リュックの製作	製作に適した材料や縫い方、用具の安全な取り扱い方について理解できる。 手縫い、ミシン縫い、アイロンなど、製作に必要な基礎的スキルを身につけることができる。	
11				
12				
13				
14				
15				
16				
17				
18	B 衣食住の生活【住生活】 地域と住まい 学習基盤 B	災害への備え	地域の様々な災害に備えて、室内を安全に整備する必要とその方法について理解する。	
19				
20	B 持続可能な住生活	持続可能な住生活を目指して	持続可能な住生活を目指して、課題と解決方法を考え工夫できる。	
21	B 日常食の調理	1. 調理の基礎・衛生と安全	安全と衛生について理解し、適切にできる。	
22		2. 野菜、いもの調理	野菜、いもの調理上の性質について理解し、工夫して調理できる。	
23				
24		3. 魚、肉の調理	魚、肉の調理上の性質について理解し、工夫して調理できる。	
25				
26		4. 和食の調理	日本の食文化を理解し、和食の調理ができる。	
27				
28	B 生活の課題と実践	生活の課題と実践	生活の中から問題を見だし、課題を設定し、その解決に向けて計画を立案、実践することができる。	
29	A 家族・家庭生活 幼児の生活と家庭	1. 幼児のころと今の自分	自分の成長を振り返り、幼児期に関心をもつ。	
30		2. 幼児の体の発達	幼児の身体的特徴と体の発達について理解する。	
31		3. 幼児の心の発達	幼児の言語、認知、情緒、社会性などの発達について理解する。	
32				
33		4. 発達にとってのおとなの役割	子どもが育つ環境としての家族や周囲のおとなの役割について理解する。	
34		5. 遊びが必要なわけ	幼児にとっての遊びの意義を理解する。	
35		6. 遊びを支える環境と道具	幼児が安全に十分な遊びを経験できる環境や道具の重要性を理解する。	